

被災地で小学生が感じたものは…

”キッズボランティア”が報告会

10月11日、今年7月に「キッズボ

ランティア」として東日本大震災の被災地である宮城県仙台市に派遣された武雄市立東川登小学校の5・6年生10人が市役所を訪れ、樋渡市長への報告会を行いました。

一生忘れない思い出に

小学生のみなさんは、それぞれ派遣先で撮影した写真パネルを見せながら、現地で見聞きして感じたこ



となどを報告しました。

このうち、6年生の幸尾由加里さんは、アルミ缶収集のボランティア活動について、「以前は、委員会活動だからという気持ちで取り組んでいましたが、仙台に行つて、『被災地の人はがんばっている。私もがんばらなくては』と思うようになりました」と話していました。

また、5年生の山口悠紀さんは、六郷小学校との交流の中で友達ができ、いつか東川登で再会する約束



をしたそうで、「仙台に行ったことを一生わすれません。これからもボランティア活動を続け被災地に元気を届けたい」と話していました。そのほかのみなさんも、家族がい



て何不自由ない今の暮らしがいかに有り難いかということなど、被災地の現実を実際に自分の目で見ることで気づいたことや感じたことを胸にして帰ってきたようでした。



がんばっぺし！陸前高田

「チーム武雄」が被災地支援

10月19日、武雄市の被災地ボランティア「チーム武雄」が陸前高田市へ出発しました。

参加者は、最年少が21歳から81歳までの武雄市民17人（市役所職員2人が随行）。10月21日に陸前高田市で開催された「全国太鼓フェスティバル」の準備・運営支援を行いました。



国内外の一流の演奏家が集まり、「太鼓の甲子園」とも呼ばれる一大イベントを「チーム武雄」一丸となって支援し、復興に向け日々汗を流している被災地のみなさんを盛り上げる大きな力となったようです。

9月定例会を開催

9月3日～21日に武雄市議会9月定例会が開かれ、市長提出議案24件のほか報告2件、意見書、請願など計28議案と特別委員会の設置が審議、可決されました。一般質問は16名の議員から61項目の通告により4日間の日程で行われました。

条例・事件議案では、いわゆる空き家条例（武雄市空き家等の適正管理に関する条例）などが審議され、いずれも原案どおり可決されました。

予算議案では、農地農林施設災害復旧事業（1億9千333万円）や図書館・歴史資料館改修事業（4億5千万円）などが審議され、いずれも原案どおり可決されました。 ※詳細は武雄市ホームページで <http://www.facebook.com/takeocity>

文部科学大臣表彰

壮年ソフトボールチーム「武雄球友クラブ」がこのほど、平成24年度生涯スポーツ優良団体として文部科学大臣表彰を受けました。

平成2年に設立された武雄球友クラブは、全日本壮年大会ベスト16や西日本大会準優勝など、これまで輝かしい成績を収めており、こうした点が評価されたものです。